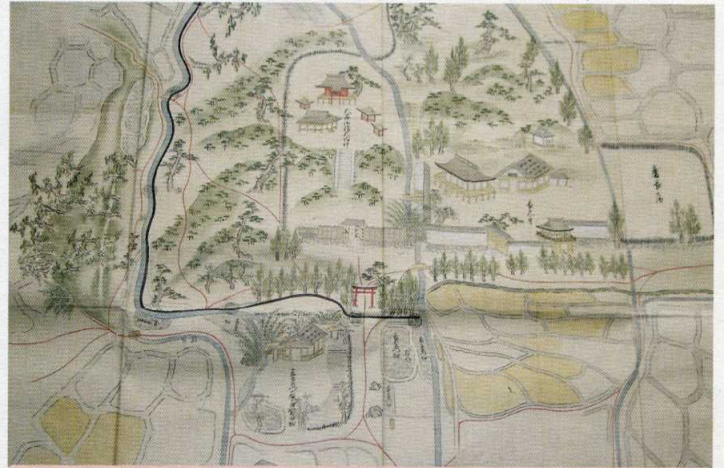




飯田・上飯田の史料調査を行っています

歴史研究所では現状記録調査法という方式で飯田・下伊那地域の貴重な史料を調査しています。特に重点的に調査を進めている飯田・上飯田では、現在数件の史料調査を行っています。今回は東野地区の旧家である松澤卓治氏所蔵文書の調査に関する現状をご紹介します。

大宮諏訪神社は中世には鎮座し、慶安3(1650)年9月に当時の藩主脇坂氏の命によって社殿が造営され、同5(1652)年に城下町を練り歩く祭礼が挙行されたことが、同じ年に作られた松澤氏所蔵の神社の縁起によって分かります。この時神主であったのが松澤氏の祖先である松澤源太夫という人物でした。源太夫が延宝2(1674)年に息子へ田畑や屋敷、大宮諏訪神社の林などを譲り渡す内容の証文があり、農業のかたわらで神主の仕事をしていたことが分かりました。



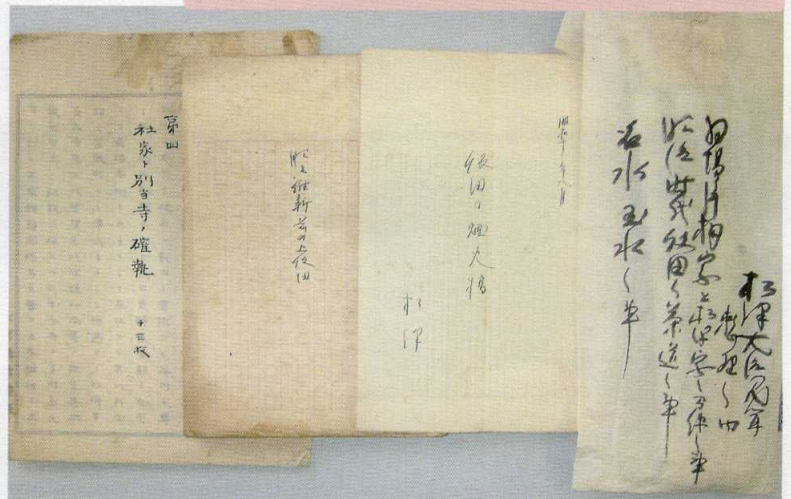
大宮諏訪神社、長久寺、松澤家を描いた元文5(1740)年の幕府による裁許絵図。中央に大宮諏訪神社、右に長久寺、赤い鳥居のそばに松澤家の屋敷が描かれています。



左側に水路と水車小屋を備えた屋敷の拡大部。印鑑の押された太い黒線は、神社境内との境界を示したものです。

しかし、神社の管轄を巡る長久寺との争いで神主職を辞めてからは、専ら農業や水車業を営んで生計を立てていたようです。この長久寺との争論に関する史料が多く残されています。また上飯田の村役人も務めていたことから、年貢納入に関する帳簿など、江戸時代における東野の行政関係が分かる文書も残されています。明治期以降も上飯田村の戸長を務めた千治氏、昭和初年に上飯田町町長を務めた源治氏が出たことから、上飯田尋常小学校の追加予算書や流行性感冒予防法の通知など小学校関係の文書、青年会に関する文書、また大宮諏訪神社の歴史や飯田の煙火の文書、刊行に至らなかった上飯田町史の原稿など、近代の上飯田を知る上で貴重な文書を確認しています。

松澤源治氏や大治氏が当主の頃作られた飯田・上飯田の歴史・文化に関する原稿類。左から大宮諏訪神社、明治維新前の上飯田、飯田の煙火稿(昭和10年8月作成)、明治時代飯田の茶道に関する覚書。



先日中央図書館などで展示された明治初年の上飯田村地引絵図を始め、飯田・上飯田に関係する古文書を調査・研究し、市民の皆さんに順次成果をお知らせしていく予定です。今後とも史料の情報をお寄せいただくなど、ご協力をよろしくお願いいたします。

2009年度 研究計画をご紹介します

I 基礎共同研究	研究代表者
1 基盤調査	
1-A 下伊那地域における近世・近現代史料の所在状況に関する悉皆的研究	竹ノ内雅人
1-B 聞き取りによる史料調査	池田勇太
1-C 下伊那地域における近世・近現代史料の拠点型・現状記録調査および採集調査	竹ノ内雅人
1-D 飯田・下伊那地域における歴史的建造物の所在状況および現状に関する悉皆的調査研究	伊藤毅・金澤雄記
1-E アーカイブズ、特に行政非現用文書の保存・活用	池田勇太
1-F 他地域に伝来する飯田・下伊那関係歴史資料の調査研究	吉田伸之
2 課題研究	
2-A 学校所蔵史料の悉皆的調査および研究方法について	多和田真理子
2-B 下伊那の戦時体制資料調査	池田勇太
2-C 伊那郡における千村氏預所の地域社会構造と支配に関する総合的研究	吉田伸之
2-D 1960年代における飯田下伊那の社会経済構造転換に関する総合的研究	本島和人
2-E 満州移民を送出した飯田・下伊那の地域社会の分析	齊藤俊江
2-F 飯田城下町の空間復元的研究	吉田伸之
2-G 近世・近代における飯田・下伊那地域のたばこ生産と流通	竹ノ内雅人・金澤雄記
3 単位地域プロジェクト	
3-A 飯田・上飯田（「丘の上」）	多和田雅保
3-B 座光寺	多和田真理子
3-C 南信濃	池田勇太
3-D 清内路	吉田伸之
3-E 部奈	吉田ゆり子
II 基礎研究	
顧問研究員	
成立期堀氏飯田藩における飯田城下町の基礎的研究	吉田伸之
森林資源の管理・利用システムとその変遷	岩本純明
下伊那地方在郷軍人会に関する史料調査と研究	上山和雄
古代シナノの宮号舎人氏族の研究－金刺舎人氏・他田舎人氏・久米舎人氏－	田島公
飯田・下伊那の教育・人間形成についての教育社会史的研究	田嶋一
5世紀における渡来人の研究	土生田純之
飯田・下伊那地域の戦後開拓	森武磨
下伊那地域における諸身分集団の複層構造に関する研究	吉田ゆり子
兵農分離と地域社会の変容	吉田ゆり子
研究員	
幕末維新期における民政改革の研究	池田勇太
飯田・下伊那地域における本棟造の悉皆的調査研究	金澤雄記
飯田・下伊那地域の寺社と地域社会に関する基礎的研究	竹ノ内雅人
調査研究員	
移民送出と外国人労働者、飯田・下伊那地域の産業構造から	本島和人
分村移民の構成と送出過程、上久堅村開拓団の場合	本島和人
地域社会経済史「両大戦間期の組合製糸」の集約を中心として	田中雅孝
近世上飯田村の村落秩序と社会構造	多和田雅保
明治期座光寺村における小学校運営	多和田真理子
調査研究補助員	
下伊那と満州移民	齊藤俊江
飯田遊郭の女性の生活	齊藤俊江
伊那自由大学再考	清水迪夫
近現代日本農村の複層的な展開－中山間地域の歴史分析－	坂口正彦
客員研究員	
近代日本における地主小作関係の再検討－森本家の事例を中心として－	谷本雅之

特集

アジア・太平洋戦争にいたる道 —霞ヶ関と飯田から—

戦後60年を過ぎ、アジア・太平洋戦争の記憶は体験者の高齢化などにより薄れつつありますが、他方であらためてその意味が問い直されてきています。この戦争にいたる道を、軍部と外務省のみに求めるのではなく、地域の視点をも含めて、霞ヶ関と飯田から、具体的に明らかにしていきます。

第7回

飯田市地域史 研究集会

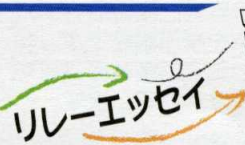
▼開催期間 平成21年8月29日（土）・30日（日）

▼主な内容

29日 午後1時00分～ 歴研賞授賞式
午後1時30分～ 特集 アジア・太平洋戦争にいたる道
30日 午前9時30分～ 小特集
河野村長胡桃沢盛について（仮題）
午前10時50分～ 研究報告会
—地域の歴史・文化に関する研究成果の報告—

▼会場 飯田信用金庫本店大会議室

特集報告者 加藤陽子さん（東京大学）・須崎慎一さん（神戸大学）・仲田文之助さん（飯田市）



新スタッフ紹介

毎日が新鮮な出会い

本島和人 (もとじまかずと) 調査研究員
 経済・社会政策科学専攻。
 1949年飯田市鼎生まれ。
 信州大学大学院修士課程修了。

この4月より常勤の調査研究員として歴史研究所の仕事に携わるようになりました。1か月余が過ぎて、研究所の仕事が実に多岐にわたることに改めて驚いています。また、毎日の仕事を通じての新たな出会い、次々と現れる史料の数々、異なる研究分野からの刺激、若い研究者からの新鮮な情報、そんな毎日に、いい歳をしていささか興奮気味でもあります。高校卒業

から生まれ育った下伊那を離れて暮らして三十数年が過ぎていました。兄弟もこの地を離れ、両親はすでに亡くなり、叔父たちも年老い、二十世紀も遠のいていきます。父祖たちの時代だけでなく、私自身が生きた時代がすでに「歴史」として語られはじめています。そのような現在にあって、生まれ育った土地に関わるテーマを、多くの皆さんとともに研究できることは幸いなことです。

私の研究テーマは、飯田下伊那に関わる近現代における人の動きです。土地を離れていく者、その一方でこの土地に引き寄せられてくる人々、その動きを時間軸と地球規模の空間的な広がりの中で捉えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

池田勇太 (いけだ ゆうた) 研究員
 日本近代史専攻。
 1978年東京都生まれ。
 東京大学大学院博士課程修了。

下伊那の明治維新史を学びたい

この5月から歴史研究所に着任をしました。大学院では明治維新の政治・思想に関する研究をしてきまして、特に儒教思想を中心に、幕末維新期の人々がどのような考えを抱いて維新の大変革と向き合っていたかを調べてきました。これまでの研究フィールドは主に熊本藩でやってきたのですが、熊本のような大きな藩で儒学の影響力の強かった土地に比べ、下伊那は小さな藩と旗本領が入り組み、国学の普及が進んだ地域でしたので、同じ明治維新の経験でもいろいろな違いがあると思います。また歴史研究所には近代の地域史料が多くあって、飯田・下伊那のふびとのいまに連なる歴史が学べることを期待しています。4月から飯田に移り住みましたが、町には色とりどりの花が咲き、南アルプスの白い山並みが青空に映えているのが印象的でした。山間に入ると新緑がみずみずしく芽吹いて、美しい土地に来たと思えました。朝に霧が深くたちこめて町をおおうのも珍しく、これからの四季の移りかわりが楽しみです。まだまだ未熟者ですが少しでも地域の役に立てよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



歴史研究活動を助成します 申請研究募集

歴史研究所では、飯田・下伊那の素材を用いた歴史研究活動を助成します。ぜひ応募ください。

- ▼助成金額
 - 市民・郡民および卒業論文 10万円以内
 - 修士論文 15万円以内
- ▼申請手続き
 - 提出書類 研究計画書
 - 提出期限 平成21年7月10日(金)
- ▼助成の条件
 - 飯田・下伊那の素材を用いたオリジナルな歴史研究の成果であること。
 - 新たに得た史料の所在情報などについては、研究所へ提供すること。
 - 研究成果の発表を、所定の時期に研究所で行い、併せて研究所の刊行物を通じて公表することを原則とする。

- ◆対象とする分野 歴史関係全般
- ◆応募資格
 - 飯田・下伊那郡内に住所を有する個人または団体
 - 大学の卒業論文や修士論文を作成するための研究を行う者

- ▼審査方法 歴史研究所研究部が行う。
- ▼研究論文等の提出
 - 提出期限 平成22年2月27日(土)
- ▼助成金の交付
 - 助成金の交付は、助成の条件などに関して必要な審査を行い、交付することが適当と認められたものについて、平成22年3月31日までに進行。
- ▼その他
 - 歴史研究所のホームページをご覧ください。直接お問い合わせください。電話0265(53)4670

2009 飯田アカデミア

第51講座

さとう まさとし

講師：佐藤 全敏さん

(信州大学人文学部准教授/日本古代・中世史)

場所：飯田市上郷考古博物館 1階会議室

第1テーマ

7月11日(土) 13:30~17:00

古代天皇の食卓

「食事」とは不思議なものです。食事にはいつの時代も、その時代や社会の様子、そして食べる人の価値観までもがうつしだされています。この講義では、平安時代の天皇の食卓をとりあげ、それがあるときに劇的に変化するものを具体的に論じます。なぜ天皇の食卓は変化したのでしょうか？そしてそれはどんな変化？そういった問題も一緒に考えてみたいと思います。食事という日常生活のささやかな部分から、国家支配理念の変容、そして東アジア世界の変動がみえてくるはずですよ。

第2テーマ

7月12日(日) 10:00~14:30

古代天皇の食材の集めかた

天皇が口に作る食材は、どのように集められていたのでしょうか。これは生々しい「支配」の問題でもあります。この講義では、奈良・平安時代の天皇の食材(=贄(にえ))が、いかにして全国から収取されていたのかを具体的に論じます。あらかじめ述べておけば、それは性格の異なる3つのシステムからなりたっていました。そしてあるときいっせいに変質していくのです。3つのシステムとはどういったものだったのでしょうか？そしてその変化の意味するところは？古代天皇の性格変容をとらえたいと思います。

- 1コマ90分、計4コマ(各日2コマ)
- 会場 飯田市上郷考古博物館 1階会議室(飯田市上郷別府2428-1)
- 募集人数 30人
- 受講料 1講座400円(資料代)
- 申込み・問い合わせ 電話、FAX、E-mail、
 ながの電子申請サービス(<http://shinsei-nagano.lg.jp>)
 で、歴史研究所へお申込みください。
- FAXまたはE-mailでお申込みの場合は、住所・氏名・電話番号を明記してください。

シリーズ 満州移民

飯田下伊那からのメッセージ

地域史講座

第22講座

「満州移民の送出と満州の生活
～山本地域を中心に～」

歴史研究所編『満州移民—飯田下伊那からのメッセージ』を題材にした講座です。本を読んでいらっしやらない方にも分かりやすく解説しますので、多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

●7月18日(土) 午前10時～正午

- ・講師 齊藤俊江(調査研究補助員)
- ・場所 山本公民館 講義室

下伊那における満州移民の立案・実行過程はどのようであったか。

山本、会地、伍和地域は終戦間際に阿智郷をつくり満州へ渡りました。山本の皆さんから当時の様子を伺いたいと思います。



満州移民とは何だったのか、それは現在に何を問いかけているのか!

▲歴史研究所編『2007年刊』
『満州移民—飯田下伊那からのメッセージ』
(第1・3回平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞) 受賞

歴研ゼミ 6月・7月の予定

実践的に歴史研究の方法を学ぶ講座です。各ゼミでは随時受講生を受け入れています。

■時間 午後7時～8時40分 (各ゼミ共通)

近世史ゼミ

■開催日 6月2日・16日
/7月7日・21日
(第1・第3火曜日)

■担当 竹ノ内雅人
(研究員)

建築史ゼミ

■開催日 6月9日
/7月14日
(第2火曜日)

■担当 金澤雄記
(研究員)

近現代史ゼミ

■開催日 6月11日・25日
/7月9日・23日
(第2・第4木曜日)

■担当 田中雅孝
(調査研究員)

定例研究会

研究活動促進のため、定期的に公開研究会を開催しています。

6月27日(土)

「上久堅分村の新資料から」
講師：本島和人(調査研究員)

7月18日(土)

「交代寄合近藤家の明治維新」
講師：池田勇太(研究員)

場所：歴史研究所 2階研修室
時間：午後2時～4時

歴研日誌

4月

- 7日 近世史ゼミ(オリエンテーション「掟と党」)
- 8日 現代史ゼミ
- 9日 近現代史ゼミ「2009年度運営計画について」
- 11日 地域史講座「満州移民—飯田下伊那からのメッセージ1・1920～30年代の飯田下伊那」 鬼塚博—千代公民館
- 14日 建築史ゼミ(オリエンテーション)
- 16日 建造物調査—豊丘
- 18日 定例研究会「飯田・下伊那の本棟造」 金澤雄記
- 19日 東京大学日本史学研究室地域史講座「下区有文書に見る清内路村の近世」 吉田伸之他—清内路下区公民館
- 21日 近世史ゼミ「ふたつの松川入絵図」
- 23日 近現代史ゼミ「文献講読『昭和の記憶を掘り起こす』」
- 24日 建造物調査—下久堅
- 25日 原好文氏所蔵史料調査
- 25日 説明会「絵図と史料からみる上飯田の江戸時代」
竹ノ内雅人—中央図書館
- 25～30日 中央図書館展示「絵図と史料からみる上飯田の江戸時代」
- 30日 鬼塚博研究員任期満了退任

5月

- 1日 池田勇太研究員着任
- 9・10日 飯田アカデミア第49講座「人と土地の関係史／インド教・仏教における罪」 小谷汪之さん—上郷考古博物館
- 12日 建築史ゼミ「大火前の丘の上」
- 13日 長野原歴史研究会総会へ出席
- 14日 近現代史ゼミ「胡桃沢盛日記翻刻方法」
- 16日 地域史講座「満州移民—飯田下伊那からのメッセージ2・昭和20年8月の上久堅村開拓団」 本島和人—上久堅公民館
- 19日 近世史ゼミ「安政四年三月六日付 片桐春一郎書簡 平田鏡胤」
- 23日 定例研究会「近世清内路村の煙草生産と流通」 竹ノ内雅人
- 28日 近現代史ゼミ「胡桃沢盛日記翻刻方法」
- 28日 聞き取り調査「満州開拓と戦後再開拓」 寺沢つ子さん
- 30日 上飯田村絵図公開・説明会(鼎歴史を学ぶ会)
竹ノ内雅人—鼎公民館
- 30～31日 飯田アカデミア第50講座「中世の人々の祈りの風景／中世の誓約の作法」 千々和到さん—りんご庁舎

■継続調査 松澤卓治氏所蔵文書、菊池謙一・幸子史料、後藤信正氏所蔵文書、今村八束氏所蔵文書、森本信正氏所蔵文書、北原嘉雄氏所蔵文書、岩戸久義氏所蔵文書、本多広文氏所蔵文書、松田初美氏所蔵田中伍市関係史料、上松家所蔵文書、中原謹司史料、楠操氏史料、岡田昭夫氏所蔵文書、南原区民センター所蔵文書、部奈一朗氏所蔵文書、山下大輔氏所蔵文書

6月・7月の催事スケジュール

	6月	2009	7月
月		1 水	
火	近世史ゼミ	2 木	
水		3 金	
木	職場体験学習 竜峡中	4 土	
金		5 日	
土		6 月	
日		7 火	近世史ゼミ
月		8 水	
火	建築史ゼミ	9 木	近現代史ゼミ
水		10 金	研究活動助成締切り
木	近現代史ゼミ	11 土	アカデミア 第51講座
金		12 日	
土		13 月	
日		14 火	建築史ゼミ
月		15 水	
火	近世史ゼミ	16 木	
水		17 金	
木		18 土	地域史講座/定例研究会
金		19 日	
土		20 月	
日		21 火	近世史ゼミ
月		22 水	
火		23 木	近現代史ゼミ
水		24 金	
木	近現代史ゼミ	25 土	
金		26 日	
土	定例研究会	27 月	
日		28 火	
月		29 水	武蔵高校生徒史料調査
火		30 木	
		31 金	

開所日 休所日

開所時間 午前9時～午後5時

休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日～1月3日